

たまがわじょうすい・ないとうしんじゅくぶんすいさんぽみち

玉川上水・内藤新宿分水散歩道



新宿区では、「まちの記憶」として次世代に受け継ぐべき財産である「玉川上水」の流れを偲ぶため、環境省をはじめとした多くの関係者の協力のもと、新宿御苑内に玉川上水・内藤新宿分水散歩道を整備しました。新宿御苑の雄大な自然や四季折々の変化とあわせて散策をお楽しみください。



水道碑

名所江戸百景
玉川堤の花
歌川(神代)広重画
新宿歴史博物館蔵



玉川上水の歴史

江戸の水

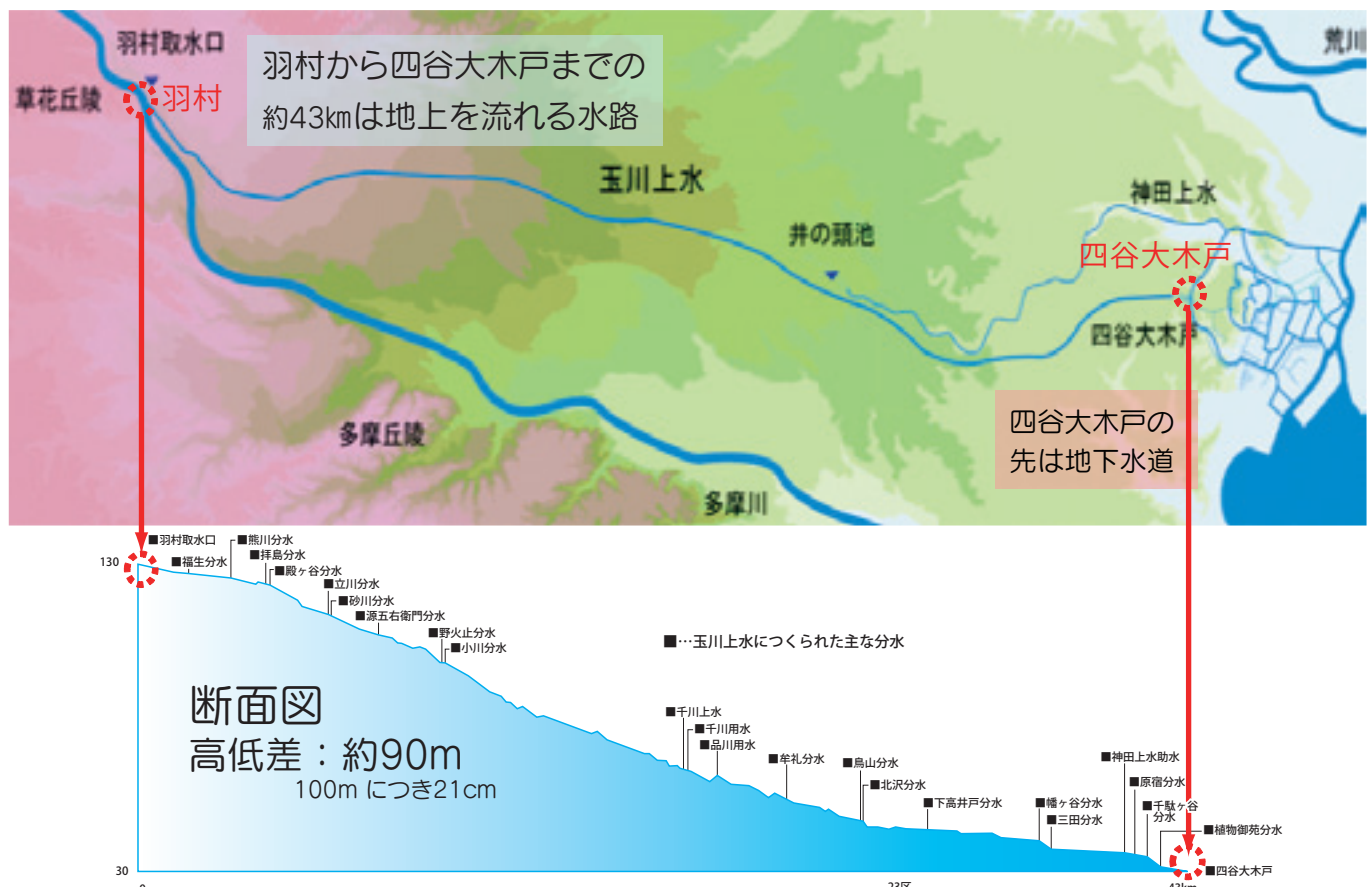
徳川家康の江戸入り以来、江戸は多くの武士や町人たちが暮らす大都市になりました。そこで大きな問題になったのが、飲料水です。江戸はもともと海辺だった場所を埋め立てた場所が多かったため、良質の井戸水を得ることは難しい状況でした。

当初は赤坂溜池の水が使われましたが、天正18年(1590)には、井の頭池を水源とする神田上水が開発されました。しかし、江戸に幕府が開かれ、江戸がさらに発展すると、新しい上水が必要となりました。そこで開発されたのが玉川上水です。

玉川上水の開削

玉川上水は、江戸幕府の命を受けた玉川兄弟により工事が行われました。多摩川上流の羽村(現羽村市)に水を取り入れる取水堰を設け、羽村から四谷大木戸(現四谷四丁目交差点付近)までなんと43キロメートルを、たった90メートルほどの標高差を利用して水路がつくられ、当時の測量技術の高さが伺えます。承応2年(1653)4月に着工、同年11月には四谷大木戸まで、承応3年6月には江戸城虎の門まで完成しました。

上水は羽村から四谷大木戸までは地上を流れ、四谷大木戸から江戸市中には、地中に埋めた石や木で作られた碑を通して水が送られました。



(資料提供 東京大学石川研究室)

玉川上水の仕組み

江戸市中の玉川上水は、地中の樋（木樋、石樋）を使って水が供給されました。石樋は本管として一部で使用され、多くは木樋が使用されました。水は各所に設けられた上水用の井戸に溜め、これをくみ上げて利用しました。



四谷付近で発見された木樋

井戸杵（新宿歴史博物館蔵）

玉川上水と新宿



四谷大木戸付近の玉川上水を描いた錦絵
「玉川堤の花」
(歌川（初代）広重画、新宿歴史博物館蔵)

玉川上水は、新宿区域に入ると角筈村（現西新宿）、内藤新宿の南端を流れた後、内藤家屋敷（現新宿御苑）の中を流れました。内藤家は屋敷内の池（玉藻池）の水源として利用しました。また、内藤新宿の南側には上水土手に桜が植えられ、名物となりました。



四谷大木戸「江戸名所図会」
(新宿歴史博物館蔵)

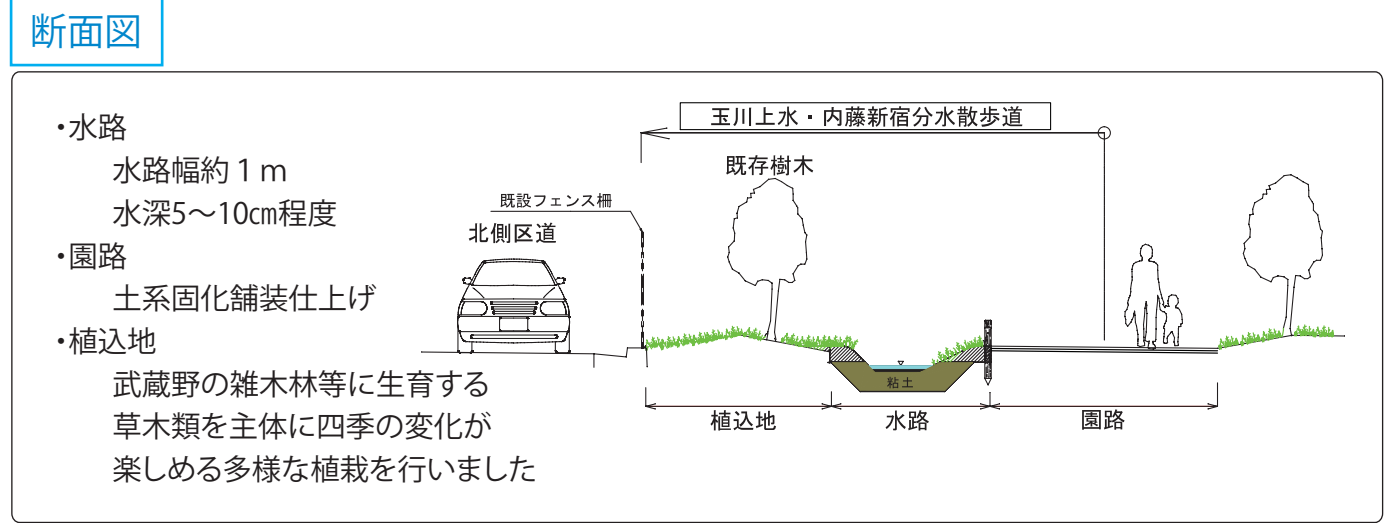
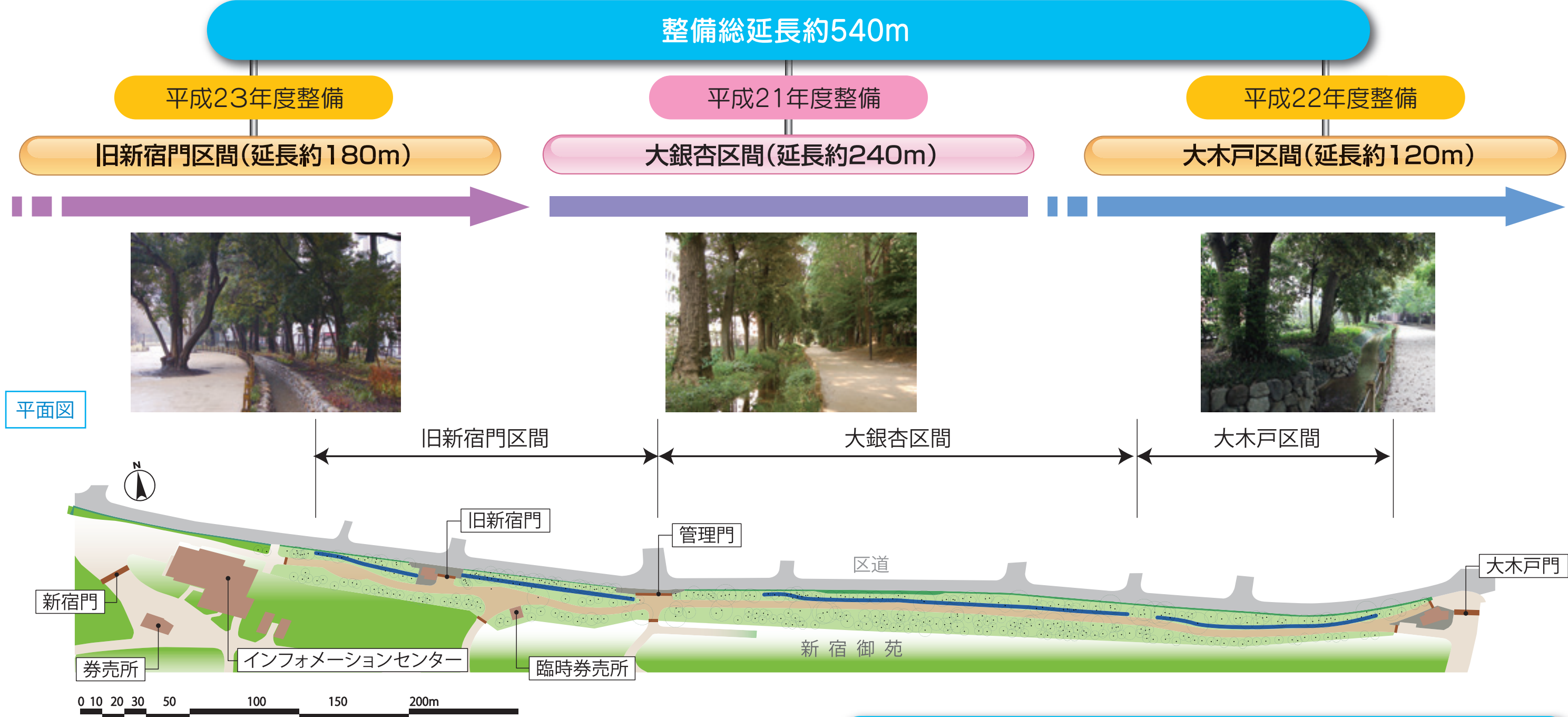
江戸の貴重な水を守るため、玉川上水は厳重に管理されていました。羽村から四谷大木戸までは、地上を流れていたため、上水脇の土手も含めて流域の村々には厳しい規制が課されました。

四谷大木戸脇には、上水の水質、水量、上水内のゴミや異物の監視を行うために、水番屋が設置されました。

水番屋には、流れてきたゴミを止める「芥留」、雨などのために満水となった時、渋谷川に水を流す「吐水門」、江戸市中へとり入れる水門がありました。

江戸市中の水資源を管理する重要な地点がこの四谷水番屋でした。

玉川上水・内藤新宿分水散歩道の紹介



都市公園コンクールの受賞

第26回 都市公園コンクール(平成22年10月)
国土交通大臣賞受賞
(材料・工法・施設部門:大規模施設)

平成22年の都市公園コンクールにて、漏出地下水の活用、歴史性の重視、生物多様性の配慮など、対象地の景趣を活かした共生型の空間整備と地元との連携を高く評価していただき、国土交通大臣賞を受賞いたしました。



整備までのあゆみ

新宿区では、玉川上水を未来に引き継ぐべき区民共有の財産と位置づけ、その再生・整備を図ることとしました。そして、地域の方々や学識経験者、行政機関等と検討会を立ち上げるとともにワークショップやシンポジウムを開催するなど数多くの検討を重ね、整備を進めてきました。

年	経緯
昭和63(1988)年	新宿通り(放射5号線)の地下化工事始まる。地上部分の復旧工事に向けて、散策道整備の検討が始まる。
平成元(1989)年	「四谷大木戸に玉川上水を復活させる会」から、多くの署名を添えて新宿区議会議長に陳情書が提出される。
平成16(2004)年	「新宿区まちづくり懇談会」で玉川上水の整備が取り上げられる。 雑誌鼎談(小池環境大臣、中山新宿区長、石川慶大教授)にて、玉川上水の復活が提案される。
平成17(2005)年	全国都市再生モデル調査に選定。～都心部における水とみどりのネットワークによる自然環境の再生に関する調査(環境省)～
平成19(2007)年	17年度からの検討会を経て、「玉川上水・内藤新宿分水散歩道基本計画」を策定。
平成22(2010)年	「玉川上水・内藤新宿分水散歩道(大銀杏区間)」供用開始
平成22(2010)年	第26回都市公園コンクールにて国土交通大臣賞受賞
平成23(2011)年	「玉川上水・内藤新宿分水散歩道(大木戸区間)」供用開始
平成24(2012)年	「玉川上水・内藤新宿分水散歩道(旧新宿門区間)」供用開始により、全区間完成



ワークショップの様子
(花園小学校との
せせらぎづくり体験)

検討会の様子



シンポジウムの様子

整備コンセプト

- 玉川上水の21世紀における初めての分水
- 21世紀の環境の時代を象徴する水の道であり、次の役割を担う

都市における水循環と生物多様性の回復に貢献

都市空間に潤いを与える水景の創出

歴史的用水路としての風格のある直線的線形

都市気象の緩和とクールアイランドの創出

新宿御苑の森の歴史的変遷を継承した空間構成



計画イメージ図

施設の特徴

水路

新たに誕生する玉川上水の分水にふさわしい姿を目指しました。整備にあたっては、人の手によってつくられた水路である玉川上水やその分水をイメージして直線的な流れとし、水路底には粘土(刃金土)を使用するなど環境に配慮しています。水路の構造についても、既存の玉川上水や現存する分水の姿をモチーフにしています。

■旧新宿門区間

玉石による石積護岸としています。設計施工に際しては、現存する分水(福生分水・熊川分水)の姿を参考にしました。



熊川分水(福生市)



■大銀杏区間・大木戸区間

護岸は土の法面とし、植栽が繁茂しやすいよう配慮しています。コンクリートは使用せず、粘土(刃金土)及び植栽土にて施工しています。



玉川上水(渋谷区笹塚)



植栽

植栽例

武蔵野の雑木林等に生育する草木類を主体に、四季の変化が楽しめる多様な植栽(約4万7千株)をしました。



ホトギス



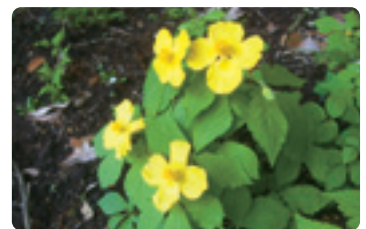
カタクリ



リュウキンカ



ニリンソウ

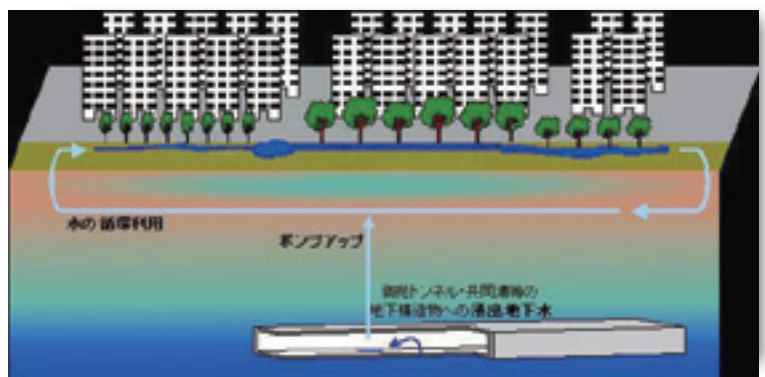


ヤマブキソウ

水源

新宿御苑の下を通る国道20号新宿御苑トンネル内の共同溝には、地下水が湧出し、今までは、下水道管へ排出処理をしていました。玉川上水・内藤新宿分水散歩道は、この水を水路の水源として利用することにより、水の有効活用を図っています。

また、水路からの水の蒸発等によるヒートアイランド現象の緩和等、都市環境の改善も期待されます。





ご利用時間について

【ご利用時間】

午前9時から午後4時30分まで

【休 園 日】

- ・ 毎週月曜日
 - ・ 年末年始 12月29日から1月3日まで
- ただし、3月25日から4月24日までの間
11月1日から11月15日までの間
の月曜日は、開園します。



お問い合わせ先 新宿区みどり土木部みどり公園課
TEL:03-5273-3915(直通)
平成24年4月 FAX:03-3209-5595